

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



3月に亡くなられたカメラマンの橋本紘二さんは大同の農村に何度も足を運び、たくさんの写真を遺してくださいました。ご冥福をお祈りします。

Contents

- 第26回総会のお知らせ P 2
- 陽眷鎮でプロジェクト開始 P 3
- あの人の人 P 4～5
- 一本でも多く P 5
- 大同緑化協力25年の軌跡 P 6～7

2020.5

193

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第26回総会のお知らせ

新型コロナによる感染症の猛威が全世界を揺さぶっています。世界の感染者数は410万人、死者も28万人に達しました(5月11日現在)。いったん収まったとしても再発の恐れも高く、長期的な備えが必要だと思います。

6月13日(土)13時30分から予定している緑の地球ネットワーク第26回総会は、郵送とEメールによる意見表明に、インターネットを介した遠隔会議をプラスして開催いたします。総会に提案する文書を、会員みなさんには近日中に発送いたします。お読みになったうえで、ご意見を同封の返信

用はがき、またはEメールによってお寄せくださるようお願いいたします。

zoomによる遠隔会議も開催し、招待メールをお送りしますので、会員並びに傍聴を希望される方は、緑の地球ネットワーク(gen@gen-tree.org)まで、表題を「総会参加」としてメールをお送りください。本文は書いても書かなくてもけっこうです。

そして、マイクとスピーカーの使用できるパソコン、タブレット、スマホをご用意ください。ウェブカメラがあると映像をとまらせてご参加いただけます。前述のメールをお寄せいただい

GEN事務局からお知らせ

一部事務作業に遅れが出ています

新型コロナウイルスの大規模な感染が各方面に影響を及ぼしています。亡くなられた方のご冥福と感染された方の早期快復をお祈り申し上げます。また、医療関係者をはじめ、社会を維持するために危険を冒して働いておられる方々に感謝いたします。

GEN事務所では4月の第2週目から1日1人出勤、さらに第3週からは1人週1日(現在職員はフルタイム・パートタイムあわせて4人なので週4日開所になります)の時短出勤で「8割減」を達成しています。残りは在宅勤務でカバーしていますが、年度末の業務処理等の問題もあり、事務所でないときけない仕事の進捗が遅れています。

そのため、通常会報発送時に同封している「会費・会報購読料納入のお願い」および「会員証」の発行を、今回は見送ることにいたしました。前回の会費納入より1年を過ぎて会員資格がなくなる方にお送りする「会費期限最終のお知らせ」のみ、会報に同封してお送りいたします。

定款により、会費期限を過ぎても1年間は会員資格があり、その間は会報をお送りいたします。今回「納入のお願い」が届かなくても次回にはお送りいたしますので、その折に納入いただきますようお願いいたします。また、上述のように事務所が手薄ですので、「会費が切れているのでは」というお問い合わせの電話はご遠慮いただきますようお願いいたします。どうしても気になる方は、郵便振替、銀行振込、クレジットなどでお支払いいただきましたら、会費期限が切れた時点から継続の取り扱いといたします。

みなさんの生活もさまざまな制約を受け、困難に直面しておられると思います。GENも総会、スタディツアー、探鳥ツアー、自然と親しむ会、前中代表と歩く「野の道」シリーズ、全て従来通りの実施がかなわず、前途多難な年となりそうですが、こんな時こそ知恵と工夫をだしあってみんなで乗り越えていきましょう。

た方には、事前の練習を含め、ご案内のメールをお送りいたします。ただし、接続が不安定になることも考えられますので、遠隔会議に参加を予定される方も、郵送またはEメールによる事前の意見表明を必ずお願いいたします。

8月の黄土高原 スタディツアー

コロナ禍が終息する気配はありません。それどころか、いったんはおさまっても、“with コロナ”の世界になるだろうと言われはじめています。社会は少しばかり変わるのでしょうか。航空機による大量輸送を前提にしたスタディツアーも、再考の必要があるかもしれません。

しかし、人と人との直接のふれあい、未知との遭遇、現場での実体験は捨てがたい価値です。あきらめきれものではない、なんとかして継続したいと思います。

本来であれば『緑の地球』5月号で8月の黄土高原スタディツアー参加者募集をおこなうはずですが、8月のスタディツアーはいまのところ実施の見通しはたっていません。中国への渡航も現時点では不可能です。ただ、出発を予定していた8月末までには時間があり、状況が変わる可能性があります。4月から陽春鎮での新しいプロジェクトが始まっていて、現場を確認したい思いを強くもっています。可能であれば、スタッフ派遣は実施したいと考えています。通常のツアーとは異なりますが、スタッフ派遣に同行を強くご希望の方がおられれば検討いたしますので、7月10日までにGEN事務所までご連絡ください。

助成金が決まりました

公益信託経団連自然保護基金の2020年度支援事業として緑の地球ネットワークの「河北省蔚県における樹木見本園建設」に、1,170,000円の助成が決まりました。

蔚県での活動4年目 陽春鎮でプロジェクト開始

河北省張家口市蔚県に緑化協力の場所を移して4年目になります。2017年は柏樹郷永寧寨村でアブラマツを植えました。この村は県南部の山地の入り口にありました。

2018年と2019年は代王城鎮代王城四村でアンズ、ヤナギ、アブラマツなどを植えました。ここは県の中央部の盆地に位置します。

そして今年からは、県の北部の陽春鎮の2つの村で、アブラマツとアンズを植えることになりました。

さてこの蔚県は、3つの代表的な地形からなっています。県の中央部は壺流河などが作り出す盆地で、海拔は900m前後、農業のほかにも工業もあり、県政府所在地の県城もここにいます。県の面積の30%を占めます。

県の南部は山地で、海拔は1500~2000m、小五台山(2882m)は河北省の最高峰でもあります。県の面積のおよそ35%を占め、国家級の自然保護区に指定された小五台山のほか飛狐峪、空中草原などの景勝地があります。

県の北部は低山と黄土丘陵で、海拔は1200~1500m。県の面積の35%を占めています。

○深刻な水土流出

4年目にして、私たちは蔚県の代表的な地形をプロジェクト地としてすべて体験することになります。今回は陽春鎮を舞台にこの黄土丘陵のようすをみていきましょう。

陽春鎮は県の西北部にあります。この鎮は長い間、山西省大同の広霊県に属し、河北省蔚県に転属したのは1953年のことだそうです。いまでもいちばん近い町は広霊です。

年間降水量は平均400mmほどですが、6月半ばからの3か月にその4分の3近くが集中します。ときに1時間70mm超の集中豪雨になり、植生の乏しい大地を洗って、表土を押し流します。雨水もそこに留まることがありません。

中国ではこれを水土流失と呼びます。

水土流失が長くつづくと、しだいに土地が劣化し、作物や植物を育てる力を失います。それが黄土高原の砂漠化で、皮肉なことに雨が砂漠化を加速しているわけです。

陽春鎮で目立つのは、ほぼ垂直に切り立った崖にはさまれた侵食谷です。写真を撮ろうとすぐ際まで行って、足下より後ろに深い亀裂が入っていてびっくりすることがあります。地面から深いところが伏流水にえぐられて空洞になり、ドサッと落ちることがあるようです。

○アブラマツを植える

アブラマツを植えるのは陽春鎮東師家窯村です。10haに12300本を植える計画で、じつは4月中旬に地元から、いま植えているとって写真が送られてきました。マツが育って、隣の木と枝葉が重なるようになると、雨水は枝葉で受け止められ、幹をつたって地面に降り、直接地表をたたくことがなくなります。水土流失が大きく軽減されます。あわせて風砂の防止にも役立ちます。

落ち葉は村の人がすぐに持ち帰って燃料にします。プロパンガスが普及するまでは日本の農村でもそうしていました。マツは変わった性質があって、有機物が増え、土が肥えると変調をきたすんですね。ですので、しょっちゅう松葉かきがなされるのは、マツの健康にとってもいいことなのです。

十数年もたつと下枝打ちがはじまります。切られた枝も貴重な燃料です。村の近くの松林で燃料がまかなわれるようになると、山の上まで通う人がなくなり、そこに自然に森林が再生してきます。大同でなんどもみかけた風景です。

○このアンズは蔚県で開発

アンズは陽春鎮豊富村で、13.33haに8800本を植えます。このアンズ、果肉

ではなく種のなかの杏仁を目的とするものです。山西省で仁用杏と呼んでいたもので、じつはこの蔚県が開発した品種なのだそう。蔚県では杏扁と呼びます。

杏仁は炒ったものがナッツとしておいしいですね。絞ってジュースにしたものもあります。用途の広い薬材であり、杏林、キョーリンは日本でも医者や薬店のシンボルでした。杏仁を搾った油は良質の保湿剤で化粧品につかわれるそう。けっこう高価に売れるのです。

植えてから4年目くらいで結実し、盛りになるとアワ、キビなどの雑穀に比べ、面積あたり5~10倍の収入をもたらします。

アンズは根が深く入り、乾燥にたいへん強いのです。マツより強いのではないかと思うくらい。でも、若いうちのノウサギの食害、虫害の発生などへの備えが必要で、手間はかかります。

繁ってくる、水土流失や風砂の防止に役立つのはマツと同様です。いい実をならせるには毎年の剪定がかかせませんが、この枝も燃料として役立ちます。そして、周囲の山に自然に森林が再生するのを助けます。環境にとってもいい役割を果たすのです。

こちらもすでに植え終わったと、連絡がきています。この春は新型コロナウイルスによる感染症の関係で現地の人を派遣することはできませんでしたが、協力事業はつながっています。



陽春鎮でのアンズの植樹作業(現地からの写真)



春の琵琶湖疎水を歩く

大野 三枝子 (GEN 会員)

3月28日、GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑩琵琶湖疎水を歩くをおこないました。14名が参加しました。

前日の大雨がなんとか上がり、JR 山科駅から市街地を通り抜け疎水端に到着。疎水のほとりは遊歩道になっていて南側の道を歩きました。桜並木が続きます。もう散りかけの樹もあり、花びらが水面に浮かびきれいです。山桜と染井吉野が混じって並んでいます。

前中先生が「山桜は個体によって花の色も葉の色も咲く時期も微妙に違います。吉野山の桜は山桜です」と話して下さいました。それで解った！ 染井吉野の並木はみんな同じ色でズラッと並んでいるけど、吉野の景色は濃い薄いのピンクが入り混じってグラデーションになってますもんね。花びらが白くて大きく、葉が薄緑の桜もありました。やはり山桜だそうですね。

疎水の北側は里山です。暗い木の間には三つ葉ツツジの薄い赤紫がとてもきれいです。藪椿の赤もきれいです、散り椿も。前中先生のお話では、日本の椿は大きく藪椿と雪椿の二種類に分かれる。滋賀県余呉湖の北あたりが境界

らしいです。小林幸子の歌が頭をよぎりました。藪椿はおしべの下が繋がっていて、雪椿は繋がっていないそうです(分解して確かめたい)。葉の花と桜の競演もあって、春らしい疎水の流れを遊覧船が滋賀方向に上って行きました。

この疎水は、琵琶湖の水を京都の産業振興の為に利用すべく明治18年に起工、27年に完成したものだそうです。今も流れは速く水量も多く、現在も発電事業や京都市民の水道用水に利用されているそうです。疎水にはいくつかのトンネルが有り、第2トンネル東口の扁額には井上馨の言葉「仁似山悦智為水歎」。第3トンネルの東口には「松方正義」の扁額が見られます。また第3トンネルの前には本邦最初という大きな碑が建つ、手すりのない小さなアーチ型のコンクリート橋が架かっています。いずれも歴史を感じます。

第3トンネルの先は遊歩道が行き止まりなので、旧東海道(日の岡峠道)

を歩くことになり、疎水から離れました。旧東海道は両側に民家が並んでいますが、車一台通れるくらいの細い道。それが西に進んで三条通に出会って、蹴上の方に進みます。そして、私達は再び疎水に出会い、インクラインに到着。疎水の落差の大きいところは台車に船を乗せて上下させる方式らしいです。台車を運ぶ線路が残る道は桜の名所で満開！ 着物姿の若者でいっぱいでした。

私達は疎水の分線である南禅寺水路閣へ急ぎました。南禅寺中門前に山桜発見！ 赤っぽいオレンジの葉がとてもきれいです。「あの葉の色を選んで植えたんでしょ」と前中先生。

そして、旅のトリはしだれ桜！ 智恩院・青蓮院の前を通って円山公園へ。樹齢80年？ 大木です。花を満喫した一日でした。



大学で参加したゼミの先生が当時 GEN の世話人をされており、紹介いただきました。中国語を専攻していて中国の文化や社会に興味があったのと、沙漠の緑化に関心があったので、GEN の活動に惹かれました。

○印象にのこっている活動は？

一つは最初に参加した黄土高原のツアーです。風景も住環境(青空トイレは衝撃的でした)も食習慣も異なり、それまで海外に行ったことのなかった当時の私には貴重で大きな経験でした。

次に GEN の活動に再び参加するきっかけになった京都御苑での自然と親しむ会です。日頃よく行く公園で、いつも何気なく見ていた楓や松、名前も知らなかった木々の特徴や小ネタを教えてください、それから植物を見る目が少しずつ変わりました。

○ GEN の良いところは？ (ア)

一本でも多く

洗足学園中学校 1年 門脇宥祈子

GEN 会員の門脇美貴子さんの娘さん宥祈子さんの書いた作文をご紹介します。GEN の活動と募金活動についても触れられており、第40回「全日本中学生水の作文コンクール」神奈川県優秀賞に選ばれました。

歴史を眺めてみれば、日本は豊かな水に恵まれ、たくさんの植物が存在している。しかしながら、世界を見渡せば、どこの地域でも十分に水を得られるわけではない。水は全生物にとって一番大切なものなのに、水汚染や沙漠化などの問題に悩まされている地域がある。私たちはそれを無視していいのだろうか。日本人には本当に関係ないのだろうか。

私が中華人民共和国の首都、北京に住んでいたのは外国人が多く住む地域で、多くの水を日本と同じように使うことができた。しかし、北京にたくさん水があると考えるのは間違いで、現状では水がなくて苦しんでいる人がたくさんいるのだ。

北京では何年も水源の場所に困っている。以前は黄河から水を引いていたのだが、今は多額のお金を払ってはるか南の長江から水を引いている。大量の黄土が流れ込み、枯渇してしまった黄河には、もう北京を支える水がないからだ。かつて澄んだ水で満たされていたこの川には、年間約16億トンの土が流れこんでいる。その土で高さ1メートル、幅1メートルの堤防をつくると、赤道を27周するぐらいの長さになると。その土の約80パーセントが黄土高原由来といわれている。

黄土高原とは、中国の西側にある高原で、沙漠化の問題を抱えている。およそ200年前までは、高原には50パーセント以上の森林があったとされているが、今は長い間の農業で少しずつ有機物質が追加され、粘土のような黄土で覆われている。また植物が育たないため、本来ならば雨が降っても水をせき止め、貯水する役目を果たす根がなく、雨水がすぐに流れてなくなってしまふ。さらに、砂嵐をとめる植物もなくなり、徐々に黄土がたまっていくことになる。その繰り返して、沙漠化が急速に進んでいるのだ。

20年前、私の母は黄土高原にある大同付近を訪れ、ボランティアで植林活動をやっていた。根付きやすいアブラマツの木を植え、土地を改良する活動だ。植えたのはただの松ではなく、活着しやすいように根に菌根菌をくっつけたアブラマツだ。日本の技術を中国に取り入れて、より大きく育つ丈夫な木をつくったそうだ。15センチほどの苗木だった松が、今では母の背をこす立派な木になっているという。

私はその話を聞き、ガールスカウトの友達と何ができるか考え、募金活動をすることにした。自分たちで焼き菓子を作り、それを売って儲けたお金で、植林活動を行っている NGO に苗の費用

やその生育費用などとして寄付した。30円で松の苗とその苗の一年間の生育費が賄えるが、全部の苗が無事育つとは限らず、多くの苗が必要だ。この活動で私は、実際に植林活動をする以外にも支援の仕方があることを知った。

20年後には、私たちが支援した木が大きく育っているだろう。しかし、その木の根っこに蓄えられた水が地下水になるまで何年かかるのだろうか。木になってからが終わりではなく、それから長い年月をかけて地下水となり、飲む水として人々の手に届くのだ。そう考えると北京で使っていたたったの1リットルの水でもどれほどの価値を持つかわかるようになった。

今、大量の水をその水がたどってきた長い道のりを考えずに使っている人は手を止めて欲しい。そして思い出してもらいたい、水を必要としている場所があることを。

私は黄土高原での状況について知ったから、協力したいという志をもてた。日本人が1人10リットル節約すれば130万トンにもなるように、より多くの人に状況を知ってもらい協力してもらうことによって大きな力が生まれるのだ。

(イ) いろんな人が集まっているところ。各分野の専門家の先生をはじめ、その他多種多様な背景、経験を持つ人、そんないろんな人の知恵が集まっていることが GEN の強みだと思います。また、私のように中国や自然にただ興味があるという人も快く受け入れてくれます。

○ GEN に期待すること

人と人、人と自然をつなぐこと。昨今日本と中国の経済的なつながりが強まる一方で、メディアの影響もあるか

もしれませんが、心理的な距離が開いているように感じます。

自分自身の仕事や GEN の活動に参加しての経験ですが、実際に触れ合い、ともに活動することで、見えるものは全く異なってきます。それは自然とのつながりについても言えることだと思います。GEN が長い年月緑化協力を続けてきた中で、関わった多くの人の意識に何かしら変化が生まれたのではないのでしょうか。植えた木の数はもちろん、人への影響もまた GEN の大きな

役割であると感じています。そして直接現地に行けない場合も、GEN を通じてつながることができるのではないのでしょうか。

○会員のみなさんへひとこと

自分自身 GEN の活動を通じて皆さんの刺激をいただくことができました。その経験を次につないでいけるよう、GEN の発展に向けて微力ながらお手伝いできればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

あの人この人

前号から数年ぶりに「あの人この人」のコーナーを再開しました。個性豊かな GEN 会員のあれこれを掲載していきます。

小西 美保子さん (京都府)

○はじめに自己紹介

2017年から世話人をさせていただいております。1979年大阪生まれ。京都の電機メーカーで事業企画や経理などの仕事をしています。仕事の都合で2008年から5年ほど中国の天津市(河北省の隣)で生活していました。昨年末長男を出産し、ただ今子育て奮闘中です。



○いつから GEN に参加しましたか？

1998年大学2回生の時、夏の黄土高原のツアーに参加したのが最初です。卒業後しばらく活動には参加していませんでしたが、仕事が落ち着いた頃、何か自分にできることはないかと思い、2015年から主に関西の活動に参加させていただくようになりました。

○ GEN に入ったきっかけは？



大同緑化協力 25 年の軌跡

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で19回目です。(高見邦雄)

大同の25年間をふりかえって、5922ha、1887万本を植えたとか、マツがちゃんと林に育ったとか、アンズが収入をもたらしたとか、それも大きな成果でしょうけど、ひょっとするとこの効果がいちばん大きいのではないかと、ひそかに思っていることがあります。

なんども話しているように、初期は失敗つづきだったんです。春に植えて、夏に行ってみると、全滅している。地元の技術者は「雨が降らず、大旱魃だったからしかたがない」と話します。

立花吉茂先生に専門家としてこの事業に加わっていただくことになって、私が撮影してきたビデオをみていただいたんですよ。植えているようすを。

そしたら先生、「これじゃあ着くはずありません。原因は水不足じゃなくて、窒息死です。水や肥料が必要なことはみなさん知ってるけど、根は呼吸しており、酸素が必要なことに思い至らない。黄土という世界でも稀な粒子の小さな土に植え、水をかけて足で踏んだら、酸素を追い出してしまふ。日干しレンガのなかに苗を突っ込んでるようなものです」。

一知半解の私がそれを地元の技術者に説明するんですけど、相手にしてくれません。「雨に恵まれた日本にいて、乾燥地のことを知らない人間にわかるはずがない」というのです。しかたがないので何度も何度も比較実験を繰り返しました。

1995年の夏、渾源县照壁村でアンズを植えたときは立花先生が団長でした。現場近くに石炭の燃えかすが捨ててあるのを、先生は目ざとくみつけたんですね、よし、これで実験をやろうと。

半数の苗はこれまで通り地元のやり方で植え、しっかり踏んでもらいます。

残りの半数は立花先生の指導で植えます。石炭ガラをスコップ一杯、植え

穴のすみにまとめて置き、苗を植えたあとは水をやり、足で踏みません。でも、地元の人たちは踏みたくてうずうずしている、これまでそうやってきたんですから。で、私は「しっかり踏んでください。ただし苗から1m以上離れたところを！」。みんながワッと笑います。「高見さん、うまいねえ」と立花先生がほめてくださいましたが、こんなことは滅多にありません。まじめくさってやって、技術者の面子をつぶすことがあってはいけなと思ったのです。

翌年の夏にまたこの村を訪れました。バスが停まるなり、私は駆け出しました。どうなったか、結果を早く知りたかったのです。やったあ！ 立花先生のやり方で植えた方は、全部が活着し、枝葉もよく伸びています。それにたいして在来のやり方は生育がよくないし、枯れているものもあります。

立花先生の指示で、それぞれ平均的なものを1本ずつ掘って、根のようすを比べてみました。石炭ガラを入れた方は、太い根が1本、石炭ガラにまっすぐ伸びて、まるでそこにある酸素を求めていったかのようです。ほかの根の生育もいい。

それでも技術者たちは「石炭ガラには肥料分があるのかもしれない」と話していました。でも、地元の農民はすなおにその結果を受け入れ、新しく植える苗のために砂利を準備して待っていたのです。

1995年に建設した協力拠点・環境林センター（南郊区平旺郷）には温室がありました。山に植える木や果樹の苗だけでは生育のサイクルが長くて技術の習得に時間がかかる、花卉を栽培すれば技術の向上を短時間で実現できる、という立花吉茂先生の構想に従って、ここには管理部、育苗部、花卉部、実験部という4部を置きました。

1995年夏、温室で育てている花や観

葉植物を、立花先生が自分で配合した土で植え替えることになりました。先生は日本でも砂と腐葉土だけで植えることが多いですけど、ここでもだいたいそのとおり。

地元の技術者が「肥料分はいらないのか？」ときくと、先生は「早く大きくしたいなら少しやりなさい。観葉植物は健康であればいいんだろ、腐葉土だけで十分だ」と答えます。

若い技術者が、自分が大切にしている鉢を物陰に隠したんですね。それを見つけた私が引っ張りだして、先生に植え替えてもらいました。

結果がわかったのは翌年夏です。みんな元気になっていました。ところが、私が見つけたあの鉢、もとの土で植えなおしてあります。私はカンカンに怒ったのです。

そしたら経理の邢雁俐さんが、「小○は悪気があってそうしたんじゃない。あのあと彼はいろんな本を調べたんだけど、あんなに砂の多い植え方はなかった。あの鉢を大切にしていたから、心配で心配でしかたなかったんだ」。その気持ちが私はわかっていなかった。

技術者たちがここまで固執するのは理由があります。統一的なマニュアルがあったのです。七字の植樹法。七字とは「選、細、深、緊、保、適、管」で、選は乾燥に強い樹種の選択、細は精緻な整地と丁寧な栽植、深は深植え、緊は根と土との密着、保は根を保護し水切れさせない、適は適期に植える、管はしっかり管護する。もっともですけど、水不足への配慮が強調されています。そしてマニュアル化されると、逸脱が困難になる、それは日本でも同じ。

このような比較実験を何度となく繰り返すなかで、協力事業にかかわる技術者はこの問題を理解するようになりました。でも、それだけじゃ、周囲に普及することができず、意義は大（大）



現地スタッフに指導する立花先生

黄土高原史話 <98>

文帝乙弗皇后の悲劇（上）

名君孝文帝（471～499在位）の孫として生まれ、腐敗と混乱の北魏末期を浮沈しつつ生きのび、最後は孝武帝（532～534在位）のもとでナンバー・ツーに。そればかりか、共に頼った先の長安（陝西省）で、帝が性的スキャンダル（『魏書』巻11に「悖徳甚だ」と為す）」を理由に、実力者宇文泰により毒殺されると、東魏政権に対抗すべく擁立されて、西魏の初代として即位する。大統元年（535）、このとき28歳。ところが、

「このあと、文帝にとって人生最大の悲劇が訪れる。」

前回「西魏文帝の前半生」は紙数が尽きてここで擱筆したのだが（編集者いわく「先が気になる」）、じつはこの悲劇、文帝自身というよりは、その皇后乙弗氏に因むものだった。

『北史』巻5「魏本紀」文皇帝の条に、「大統四年（538）二月、皇后乙氏を廢す。三月、蠕蠕の女（むすめ）郁久閭氏を立てて皇后と為す。」と、いたって簡単な記述がある。ただしこれだけでは、皇后の悲劇も俗にいう若い後妻にその地位を奪われた古女房の涙話、怨み節に受け取られかねない。

ところが、同じ『北史』巻13「后妃伝」の文皇后乙弗氏の項には、以下の

（大）きくない。

キーバースンがいたのです。1997年、あるトラブルを私が引き起こし、それまで関係のなかった大同市林業局に生まれそうになったのです。でも話はうまくまとまって、大同市林業局で40年も働いたベテラン技術者を大同事務所に戻してもらうことになりました。それが侯喜さん。

ほんとにまじめな人で、実験林場・カササギの森を建設するときは、あそこの管理棟に泊り込んで、陣頭指揮をとりました。こういう人がいると、むずかしいプロジェクトも成功するんです。

侯喜さんは通気性を改善し、水をか

谷口 義介（GEN 会員）

ごとく詳しく書いてある。「其の先は吐谷渾の渠帥（首長）たり。青海に居り、青海王と号す。」「吐谷渾」は、拓跋・宇文などと同じく、もともと東北方にいた鮮卑（モンゴル系遊牧民）の一部族。大同（山西省）で北魏を建国、のち洛陽（河南省）に遷都した拓跋部や、塞外（内モンゴル自治区）より関中（陝西省）に南下してきた宇文部とは異なって、西寧（青海省）あたりに移った西部鮮卑に数えられる。

「涼州の平らぐや、後の高祖莫瓊、部落を擁して入附し、定州刺史を拜し、西平公に封ぜらる。」

439年、北魏第3代の太武帝（423～452在位）が涼州（甘肅省武威）にあった北涼を滅ぼすと、莫瓊は部落をひきいて北魏に投じた。

「莫瓊より後、三世 公主を尚し、女は乃ち多く王妃と為り、甚だ貴重せらる。父瓊は儀同三司、兗州刺史。母淮陽公主は孝文の第四女なり。」

莫瓊よりあと三代にわたり北魏王室から降嫁をたまわり、娘たちも多く王妃となった。父が授けられた「儀同三司」とは特別に与えられた名誉職、兗州（山東省西北部～河北省南西部）の地方長官を務めた。母は孝文帝の娘だから、のちの乙弗皇后と文帝はいとこ

けてから踏まないというやり方を自分でも試して納得したあとは、「砂を加えて踏まないで植える」という四字熟語を自分で作って、古巣の大同市林業局に広めてくれました。

大同の緑化に40年間尽くした侯喜は、いま日本との協力で第2の青春を送っている、と大同の新聞が書くくらいですから、効果はあったのです。短時間のあいだに、あのガチガチの植え方は大同から消えてなくなりました。初期にあんなに失敗したのに、風景が一変するほど大同の緑化が進んだのは、すべてこのお蔭とはいいませんが、影響したであろうことはまちがいありません。

同士ということになる。二人は幼馴染みだったかもしれない。

「後は容儀美しく、言笑すること少なし。」 挙措動作が美しく、無駄口をたたかずバカ笑いしない。自己抑制のきいた、聡明な少女だったのだろう。

「年十六、文帝納れて妃と為す。」 525年、16歳で結婚するが、このとき文帝は19歳。淑やかな名家の令嬢と青年王族。似合いのカップルというべきだろう。

「帝、即位するに及び、大統元年を以て冊して皇后と為す。」

夫は直閭將軍からスタートして、太宰・録尚書事まで累進し、最後は皇帝にまで登りつめ、自身はついにファースト・レディー。しかるに、

「后、性として節儉を好み、蔬食・故衣し、珠玉・羅綺は服玩より絶ゆ。又、仁恕にして嫉妬の心を為さず。」 儉約家で美食を好まず、粗衣に甘んじ、珠玉で身を飾ることもなかった。

また憐み深く、やきもちを焼かず。帝は若いころ、「酒色に耽淫」（『魏書』巻22）したというが、これでは「帝、益々これを重んず」るほかない。まさしく男にとって理想の妻、賢夫人というべきだろう。結婚生活13年のうちに、「男女十二人を生」んだというから、子室にも恵まれた。

ところが、皇后になって3年目、文帝は非情にも

「后に命じて別宮に遜居せしめ、出家して尼と為す。」

この背後にいかなる事情があったのか。

イベント中止のお知らせ

4月11日の自然と親しむ会 泉佐野丘陵緑地「郷の棚田」活動と、5月8日～の関東ランチ西伊豆5月合宿は、新型コロナウイルスの影響により中止しました。

情報ひろば

いっしょなかたち

*今号では新型コロナウイルス感染拡大の影響で各団体ともイベントの開催を中止、延期しており、お知らせできないイベント案内はありません。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。

なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

小夏とたまねぎ
いかがですか

今年もおいしい小夏とたまねぎはいかがですか。無農薬のじゃがいももぜひお試しください。

◎土佐小夏

A	5kg	4,400円
B	3kg	2,800円
C	家庭用5kg	3,400円

◎おいしい玉葱(低農薬、有機肥料)

白たまねぎ	5kg	2,200円
〃	3kg	1,400円

◎おいしいじゃがいも(とうや)(無農薬)

じゃがいも	5kg	2,200円
〃	3kg	1,400円

※送料別途。関東970円 関西880円(20kgまで)

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとことそえてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん
(〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 tel./fax.0887-29-2500 e-mail tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)

いましてできる
GENへの協力

■会員の輪をひろげよう!

緑の地球ネットワーク会費(年額)

一般会費	12,000円
家族会費(同居の家族2人目から)	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員(中学生以下)	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください!

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化基金、運営寄付の別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

*緑化基金の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円(送料別途。5セット以上送料無料で)

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGENから連絡します。

* * * * *

【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です(期限は2024年4月8日まで)。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくはGENまでご連絡ください。

